

霧島山新燃岳 2011 年 2 月 1 日噴火火山弾中の硫化鉍物

九州大学地震火山観測研究センター*

2011 年 2 月 1 日午前 7 時 54 分の爆発的噴火で飛散したと考えられる火山弾 (図 1) (採集地: 霧島市新湯付近) を顕微鏡観察した結果、斑晶鉍物及び石基ガラス中に微細な (長径 1-100 μm) 数種類の鉄、銅硫化鉍物を確認したので報告する。硫化鉍物は球形ないし楕円形を呈し、集斑晶を構成する輝石、Fe-Ti 酸化鉍物中に含有されていることが多い (図 2)。なお、硫化鉍物は 2011 年 1 月 26 日-27 日の噴火で飛散したと考えられる軽石 (採集地: 御池少年自然の家) 中にも確認した。今後、これらの硫化鉍物の化学組成や銅、鉄、硫黄同位体比を測定し、硫化鉍物の成因や各元素の挙動等の検討を進める予定である。



図 1 霧島市新湯付近の県道 104 号線道路のアスファルトにめり込んでいる火山弾 (長径 27cm、短径 16cm)。

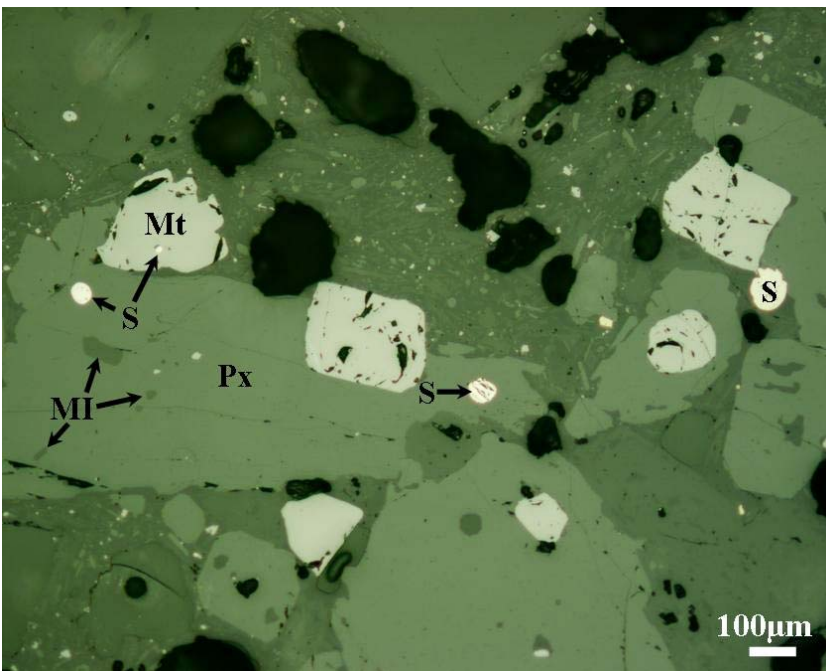


図 2 火山弾の反射顕微鏡写真。Px = 輝石、Mt = Fe-Ti 酸化鉍物、S = 硫化鉍物、MI = メルト包有物

*池端 慶・清水 洋・松島 健・松本 聡・植平賢司・寅丸敦志